

(部内資料)



たなかひであき 田中秀昭

しっかりとした柏原の将来像を描き
「地域からのまちづくり」を推進します

後援会事務所 柏原市平野1丁目11-31
TEL・FAX 072-971-5220 072-915-2074
e-mail:info@tanakahideaki.jp <http://tanakahideaki.jp>

1 地域が主体のまちづくり

お互いの顔が見え、交流ができる、歩いて行ける身の周りの地域。これからは、この程度の範囲の「地域」が主体となるまちづくりが大切です。

そして、子育て、教育、高齢者医療・介護など、地域住民が積極的にかかわれる住民主役の新しいまちづくりを目指します。

2 健康増進と子育て支援の充実

住民が日常的に健康管理に意識を持ち、気軽に利用できる健康増進施設の整備などに努めます。また、お年寄りがいつでも元気で安心に暮らせるよう、高齢者の生きがいづくり、健康づくりを充実させます。

①市立病院をさらに充実させ、緊急時の医療に充分対応できるようにします。さらに日々から病気にならないように日常的な健康指導や医療相談ができる医療機関を目指します。

②高齢者の健康的な日常生活を積極的に支援するため、地域の集会所などを利用して、文化教室、健康教室を開催し、「生きがいづくり」や「健康づくり」を支援します。

③若いお母さん、お父さんが安心して子育てできるよう、ほっとステーション、スキップKIDSなどの子育て支援事業の充実を図ります。また乳幼児医療費の助成の範囲を拡大します。

田中秀昭プロフィール

昭和32年(1957年)柏原市平野生まれ

柏原市立堅下小学校卒・柏原市立柏原中学校卒

大阪府立山本高校卒

昭和55年(1980年)近畿大学法学部法律学科卒

株式会社フタバヤラケット製作所(後楽園ベスコ)勤務

大阪府議会議員秘書

堅下小学校PTA会長

堅下小学校健全育成会会長

堅下小学校放課後子供教室実行委員

平野なかよし子供会育成会会長

大阪府テニス協会評議員

柏原市体育協会評議員

現柏原市テニス協会幹事長

3 教育環境の改良、充実

柏原市が提唱する画期的な「かしわらっ子」はぐくみ憲章を推進するため、まず地域・家庭と学校・園がスクラムを組んで、子どもたちが生き生きと学べる環境をつくるなければなりません。

小学校に入学したばかりの子どもが、机に落ち着いて座っていられないという「小1プロブレム」現象は何故なのでしょうか。保育所・幼稚園から小学校、中学校へと段階を踏む学校教育は、それぞれに意味をもっています。私たちは学校教育に性急な成果を期待しすぎていませんか。もう一度それぞれの学校・園の教育、家庭教育の意味を見つめ直してみたい。そのうえで、しっかりとした学力や情操を身につけるためにはどうするのか。計画推進されている小中一貫教育の意義とも併せて、充分議論をしていきたいと考えております。

また、環境面でも、校庭の芝生化に加えて、周辺を広葉樹の森で囲みます。森はCO₂を吸収し空気の浄化に役立ちます。いわば「いのちの森」のなかで勉学するという環境整備を行います。

4 議会改革を断行（議員定数と議員報酬の見直し）

財政再建と将来の安定的な運営のためには、行政のコンパクト化は絶対必要であり、当然、議員定数削減と議員報酬の見直しは避けて通れません。市民の意見を市政に反映する機能を充分果たすための絶対必要数は何人か。真剣に議論したいと考えています。

いのちと健康を守る行政サービスの向上

ごあいさつ

柏原市に生まれ柏原に育ち、諸先輩の皆様方のご指導のお陰をもちまして今日に至っております。

柏原市を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。高齢化社会になっていく中で、行財政改革、福祉、介護、病院、教育「小中一貫教育、小中連携」等、問題が山積しております。行政の発想のもと諸問題の改革に取り組んでいますが、人を思いやり、人を大切にこれから行政は行うべきです。

私は、長年テニスを通じて健康づくりに参加してまいりました。地域活動を通じて連帯感を高め、互いの思いやりや、助け合いの精神の育成等市民の英知を結集して、行政サービスの向上に努めなければならないと考えます。また、議会と行政との考えに大きな隔たりがあるよう位思えてなりません。議会と行政が真剣に議論し、市民に見える市政を実現しなければならないと考えます。

私は、市民の代弁者となり「市民と共に歩む市政」「いのちと健康を守る市政」を目指して全力で取り組む決意でございます。どうか皆様方の心からのご賛同とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

田中秀昭